



VF（嚥下造影検査）って何？

～「食べる」を支援する嚥下の検査～

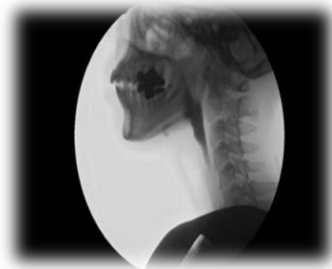
食事の時に「むせる」「食事の量が減った」「食べるのに時間がかかる」「食後、がらがら声になる」ことはありませんか？

食事以外でも「体重が減っている」「原因不明の発熱が続く」といった症状はありませんか？

このような場合、**摂食嚥下障害**の可能性があります。飲み込んだ物が気管に入ることを誤嚥といい、窒息や肺炎になる事があります。

口から胃までの食物の通過を、外から見ることはできません。VF検査では造影剤を含んだ食物をX線透視下で食べてもらうことで、誤嚥があるかどうかのチェックや、口から食道までの動きを見る事ができます。実際に**食事が禁止**となっていた方がVF検査の結果、**食べる事が出来るようになった症例**をご紹介します。

VF検査の画像



「食いたい」と希望の強い方で、何も食べられず意欲が低下している状態でした。そこで**VF検査**を行ったところ、粒のあるお粥はノドに残り誤嚥リスクがありましたが、トロミのあるお茶やゼリーはスムーズに嚥下できることが分かりました。安全に摂取できる形態が分かり、その形態での嚥下練習を行い退院する事ができました！



検査結果をふまえ、言語聴覚士が食形態や摂取方法の調整を行います。また、動画をDVDに録画し本人や家族が実際の嚥下の様子を見る事も出来ます。自分の飲み込む力や食べやすい食形態を知る事は、楽しく食事を続けるうえでとても大切です。

さらに当院では、家族や、施設の職員さんなどに**実際の食事場面の見学**をして頂くことで退院後も継続して食事が続けられるような取り組みを行っています。

当院はVF検査を実施できる病院であり、高齢者医療では欠かすことのできない嚥下能力に対する評価を行っています。適切な食形態の検討、嚥下訓練を行い**食べる楽しみを継続できるよう支援していきます！**

■ 医療法人 関越中央病院

入院だけでなく外来リハにも対応しております。
主治医にご相談ください。

▶ 施設基準

心大血管疾患リハビリテーション料Ⅰ
脳血管疾患等リハビリテーション料Ⅰ
廃用症候群リハビリテーション料Ⅰ
運動器リハビリテーション料Ⅰ
呼吸器リハビリテーション料Ⅰ
がん患者リハビリテーション料
摂食機能療法



■ 通所リハビリテーション関越中央

1～2時間の短時間通所リハ、6～7時間の長時間通所リハを行っております。
相談員業務をリハ職が行うことにより、利用者様に合わせた最適なプランを提案させていただきます。

■ 訪問リハビリテーション関越中央

病院で急性期リハを学んだ職員が対応することで、心臓・呼吸に問題のある利用者様も安心してご利用頂けます。



空き状況	月	火	水	木	金
短時間型通所リハ 1クール 9:00～10:15	○	△	○	△	△
短時間型通所リハ 2クール 10:30～11:45	○	○	○	△	△
長時間型通所リハ 9:00～15:15	○	○	○	○	○
訪問リハビリ 13:00～17:00	○	○	○	○	○

○：受け入れ可能 △：要相談 × 受入困難

〒370-3513 群馬県高崎市北原町71

TEL：027-373-5115（代）FAX：027-372-2829

アドレス：reha@kan-etsu-hospital.com

ひとことコラム 第71回

「きざみ食って食べやすい？」



きざみ食は噛む機能が低下した方や歯がない人が食べやすいように、細かく刻んだ食事のことです。きざみ食は食べやすい食事に思われがちですが、刻んだ食べ物は口の中でパラパラしてしまい、うまくまとまりません。そのため、飲み込んでもノドに残りやすくなります。また、噛むことによって唾液が分泌されます。噛むことを省いてしまうと唾液の分泌量が減り、食べ物がまとまらず悪循環となってしまいます。

きざみ食を提供する際は細かく刻むだけでなく、舌でつぶせる程度まで軟らかく調理するといいでしょう。またパサパサしやすい物には片栗粉などであんをかけ、食べ物がまとまりやすいように工夫をしましょう。

参考文献：家庭でできる高齢者ソフト食レシピ